

6. 公益財団法人アジア生命保険振興センターへの移行

(4) 慶應義塾大学および中央大学での寄附講座開設(2010年-)

慶應義塾大学での寄附講座開設

当財団は、慶應義塾大学大学院理工学研究科との間に覚書を交わし、平成22年(2010年)4月から寄附講座を開講した。開設期間は3年間とし、各年度の寄付金は300万円で寄付総額は900万円とした。名称を「OLIS-プルデンシャル・ジブラルタ生命保険寄附講座」とし、理工学部・理工学研究科および経済学部・経済学研究科学生に対し生命保険業に関する理解を与え、将来生命保険業務に携わる人材の育成、相互の連携による文理融合型人材の育成を行うことを目的として掲げた。主な実施状況は以下の通りであった。

1. 理工学研究科および経済学部・経済学研究科の学生を対象とした寄附講座開設講義「生命保険概論1(春学期)」と「生命保険概論2(秋学期)」の実施
2. OLIS-慶應義塾大学保険フォーラムの実施
3. アクチュアリー養成セミナーの実施

寄附講座は毎年120名を超える学生が履修し、大学においても看板講座となっている状況から、平成25年(2013年)4月から第2期3年間の継続を決定した。本寄附講座の特色は数理系としてアクチュアリーの養成を1つの目的に置いているが、経済学部・経済学研究科との連携で理系と文系の融合を生み出したことも特筆すべきである。運営においても外部からの講師を迎え、実際の保険業務に携わった有識者の



実学を学ぶ機会を得ることで、学生が保険業務に興味を持ち大きな刺激を受ける機会となっている。さらに、ERM(Enterprise Risk Management)、新たなソルベンシー基準、国際会計基準などの保険事業の将来にかかわる様々な専門的な問題も対象とし、保険業界で活躍できる博士号取得者の育成をめざすべく、平成28年(2016年)4月からの第3期継続も決定した。

慶應義塾大学寄附講座授業風景(2010年)

中央大学での寄附講座開設

当財団は、中央大学理工学部・大学院理工学研究科との間に覚書を交わし、平成26年(2014年)に寄附講座を開講した。開設期間は3年間とし、各年度の寄付金は150万円で寄付総額は450万円とした。名称を「OLIS-プルデンシャル生命・ジブラルタ生命保険寄附講座」とし、中央大学理工学部・大学院理工学研究科の学生に対し、生命保険に関する理解を与え、将来生命保険業務に携わる人材、特にアクチュアリーを育成することを目的として掲げ、寄附

講座を開設する他、OLISセミナーへの協力、アクチュアリー講演会、保険フォーラム、保険インターンシップなどを実施することとした。